

大学番号：069

注3

事前伺い

[令和2年度設置]

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

香川大学大学院 教育学研究科高度教職実践専攻

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人香川大学

令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 統合事務センター事務課
（幸町北キャンパス担当）

職名・氏名 総務係長・仁尾 真里子

電話番号 087-832-1405

（夜間） 087-832-1405

F A X 087-832-1418

e-mail lsoumut@kagawa-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

香川大学大学院教育学研究科

	ページ
＜高度教職実践専攻＞	
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. 既設大学等の状況	10
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	36
7. その他全般的事項	37

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 香川大学

(2) 大学名

香川大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒760-8521

香川県高松市幸町1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(カケヒ ヨシユキ) 笥 善行 (平成29年10月)		
理事	(イマイダ カツミ) 今井田 克己 (平成31年4月)		
研究科長	(ノザキ タケシ) 野崎 武司 (令和元年10月)		

例)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

(注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試

(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。)

- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
教育学研究科 高度教職実践専攻 教職修士(専門職)		2 年	20 人		40 人	基礎となる学部等 教育学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
 - ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和 年度		令和 年度		令和 年度		令和 年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	20 () [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	0.65倍	-	
志願者数	16 () [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
受験者数	15 () [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
合格者数	14 () [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
B 入学者数	13 () [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
入学定員超過率 B/A	0.65												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 転入学生は記入しないでください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和 年度		令和 年度		令和 年度		令和 年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	13 (-) [-]	[-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
4年次	/				[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
計			13 [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	13 人	0 人	令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
合計		0 人		人	人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{13} = \boxed{0} \%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
例)

2 授業科目の概要

<教育学研究科 高度教職実践専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	【教育課程の編成実施に関する領域】 カリキュラム編成の理論と香川の教育	1前	2			2						1
	【教科等の実践的な指導方法に関する領域】 教材研究・開発とICT活用による授業改善	1後	2			1						2
	指導法分析と学習支援	1前	2				2					
	学習上のつまずき・困難の指導	1休	2			2	2					
	【生徒指導及び教育相談に関する領域】 生徒指導と教育相談の理論と実践	1前	2			2	1					
	道徳教育の実践研究	1後	2			1	1					
	発達支援を視点とした教育とアセスメント	1前	2			2						1
	【学級経営及び学校経営に関する領域】 自律的学校経営と学校組織	1前	2			3						
	学級経営実践研究	1後	2			2	1					1
	【学校教育と教員の在り方に関する領域】 開かれた学校づくりと多職種連携	1前	2			3						
	学校教育の役割と教員のライフステージ	1後	2			3						
	【研究倫理に関する領域】 教育実践研究における研究倫理	1前	1			1						
小計(12科目)	-		3	20	0	11	5	0	0	0	5	
共通する実習	探究実習(学校力開発)【※】	1・2前	2			4	7					
	探究実習(授業力開発)【※】	1・2前	2			12	13					
	探究実習(特別支援力開発)【※】	1・2前	2			4	2					
	小計(3科目)	-		6		20	17	0	0	0	0	
例)	道徳教育と学校経営実践研究	1後	2			2	1					1
	学校におけるリーダーシップと組織論	1後	2			3	2					
	校内研修と人材育成	1後	2			3						
	学校組織における生徒指導と教育相談	1前	2			2	2					1
	学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制づくり	1休	1			4	2					
	学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例研究	1休	1			4	2					
	教職実践研究Ⅰ(学校力開発)	1前	2			4	2					
	教職実践研究Ⅱ(学校力開発)	1後	2			4	2					
	学校臨床実習Ⅰ(学校力開発)【※】	1前	2			4	2					
	学校臨床実習Ⅱ(学校力開発)【※】	1後	2			4	2					
	学校力開発実習Ⅰ【※】	1・2前	2			4	2					
	学校力開発実習Ⅱ【※】	1・2後	2			4	2					
小計(12科目)	-				5	2	0	0	0	2		
授業力開発コース	子ども理解と学習指導	1・2前	2			3						
	授業研究の実際	1・2後	2			2	1					
	道徳授業の実践研究	1・2前	2			1	1					
	教科の本質と内容構成	1・2前	2			10	7					
	教科横断的教育内容と教科学習	1・2後	2			11	7					
	教材研究の理論と動向	1・2前	2			11	6					41
	教材開発の実践と評価	1・2後	2			11	6					41
	教職実践研究Ⅰ(授業力開発)	1・2前	2			12	13					
	教職実践研究Ⅱ(授業力開発)	1・2後	2			12	13					
	学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発)【※】	1前	2			12	13					
	学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発)【※】	1後	2			12	13					
	学校臨床実習Ⅰ(授業力開発)【※】	1前	2			12	8					
	学校臨床実習Ⅱ(授業力開発)【※】	1後	2			12	8					
	授業力開発実習Ⅰ【※】	1・2前	2			12	8					
	授業力開発実習Ⅱ【※】	1・2後	2			12	8					
小計(15科目)	-		30		13	13	0	0	0	41		

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	【教育課程の編成実施に関する領域】 カリキュラム編成の理論と香川の教育	1前	2			2	1					1
	【教科等の実践的な指導方法に関する領域】 教材研究・開発とICT活用による授業改善	1後	2			1	1					2
	指導法分析と学習支援	1前	2				3					
	学習上のつまずき・困難への指導	1休	2			2	2					
	【生徒指導及び教育相談に関する領域】 生徒指導と教育相談の理論と実践	1前	2			2	1					
	道徳教育の実践研究	1後	2			1	2					
	発達支援を視点とした教育とアセスメント	1前	2			2						1
	【学級経営及び学校経営に関する領域】 自律的学校経営と学校組織	1前	2			3						
	学級経営実践研究	1後	2			2	1					2
	【学校教育と教員の在り方に関する領域】 開かれた学校づくりと多職種連携	1前	2			3						
	学校教育の役割と教員のライフステージ	1後	2			3	1					
	【研究倫理に関する領域】 教育実践研究における研究倫理	1前	1			1	1					
小計(12科目)	-		3	20	0	11	7	0	0	0	6	
共通する実習	探究実習(学校力開発)【※】	1・2前	2			4	7					
	探究実習(授業力開発)【※】	1・2前	2			11	15					
	探究実習(特別支援力開発)【※】	1・2前	2			4	2					
	小計(3科目)	-		6		19	19	0	0	0	0	
学校力開発コース	道徳教育と学校経営実践研究	1後	2			2	2					1
	学校におけるリーダーシップと組織論	1後	2			3	2					
	校内研修と人材育成	1後	2			3						
	学校組織における生徒指導と教育相談	1前	2			2	2					1
	学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制づくり	1休	1			4	2					
	学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例研究	1休	1			4	2					
	教職実践研究Ⅰ(学校力開発)	1前	2			4	2					
	教職実践研究Ⅱ(学校力開発)	1後	2			4	2					
	学校臨床実習Ⅰ(学校力開発)【※】	1前	2			4	2					
	学校臨床実習Ⅱ(学校力開発)【※】	1後	2			4	2					
	学校力開発実習Ⅰ【※】	1・2前	2			4	2					
	学校力開発実習Ⅱ【※】	1・2後	2			4	2					
小計(12科目)	-				5	3	0	0	0	2		
授業力開発コース	子ども理解と学習指導	1・2前	2			3	1					
	授業研究の実際	1・2後	2			2	2					
	道徳授業の実践研究	1・2前	2			1	2					
	教科の本質と内容構成	1・2前	2			9	8					
	教科横断的教育内容と教科学習	1・2後	2			10	8					
	教材研究の理論と動向	1・2前	2			10	6					38
	教材開発の実践と評価	1・2後	2			10	6					38
	教職実践研究Ⅰ(授業力開発)	1・2前	2			11	15					
	教職実践研究Ⅱ(授業力開発)	1・2後	2			11	15					
	学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発)【※】	1前	2			11	15					
	学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発)【※】	1後	2			11	15					
	学校臨床実習Ⅰ(授業力開発)【※】	1前	2			11	10					
	学校臨床実習Ⅱ(授業力開発)【※】	1後	2			11	10					
	授業力開発実習Ⅰ【※】	1・2前	2			11	10					
	授業力開発実習Ⅱ【※】	1・2後	2			11	10					
小計(15科目)	-		30		12	15	0	0	0	38		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別支援力開発コース	心理検査の理論と実際	1・2前	2			1	1					1
	個別の指導計画と個に応じた支援	1・2前	2			1						
	行動困難と社会性の指導	1・2後	2			2						
	特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用	1・2後	2			2						
	言語コミュニケーションの指導	1・2後	2			1						1
	特別支援教育のための生理・病理	1・2後	2			2						1
	特別支援教育の理論と実践	1・2前	2			4	1					
	障害に対する心理的理解と支援	1・2後	2			1	1					
	特別支援教育の支援技術	1・2前	2			1						1
	教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発)	1・2前	2			4	2					
	教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発)	1・2後	2			4	2					
	学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発)【※】	1前	2			4	2					
	学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発)【※】	1後	2			4	2					
	学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開発)【※】	1前	2			4	2					
	学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発)【※】	1後	2			4	2					
特別支援教育指導実習Ⅰ【※】	1・2前	2			4	1						
特別支援教育指導実習Ⅱ【※】	1・2後	2			4	1						
小計(17科目)	-		34		4	2	0	0	0	0	3	
合計(59科目)	-	3	112		20	17	0	0	0	0	47	
卒業要件及び履修方法												
共通科目6領域から各領域最低1科目ずつ選択し、計19単位以上修得すること。実習以外のコース科目として、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ(4単位)を含み、所属するコースの領域から7科目14単位(学校力開発コースは8科目14単位)を履修し、計18単位以上(他コースのコース科目を含めることができる)を修得すること。実習科目として、各コースの標準履修もしくは現職教員学生履修が定めるところの各科目10単位を修得すること。合計47単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:53単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別支援力開発コース	心理検査の理論と実際	1・2前	2			1	1					1
	個別の指導計画と個に応じた支援	1・2前	2			1						
	行動困難と社会性の指導	1・2後	2			2						
	特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用	1・2後	2			2						
	言語コミュニケーションの指導	1・2後	2			1						1
	特別支援教育のための生理・病理	1・2後	2			2						1
	特別支援教育の理論と実践	1・2前	2			4	1					
	障害に対する心理的理解と支援	1・2後	2			1	1					
	特別支援教育の支援技術	1・2前	2			1						1
	教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発)	1・2前	2			4	2					
	教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発)	1・2後	2			4	2					
	学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発)【※】	1前	2			4	2					
	学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発)【※】	1後	2			4	2					
	学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開発)【※】	1前	2			4	2					
	学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発)【※】	1後	2			4	2					
特別支援教育指導実習Ⅰ【※】	1・2前	2			4	1						
特別支援教育指導実習Ⅱ【※】	1・2後	2			4	1						
小計(17科目)	-		34		4	2	0	0	0	0	3	
合計(59科目)	-	3	112		19	19	0	0	0	0	45	
卒業要件及び履修方法												
共通科目6領域から各領域最低1科目ずつ選択し、計19単位以上修得すること。実習以外のコース科目として、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ(4単位)を含み、所属するコースの領域から7科目14単位(学校力開発コースは8科目14単位)を履修し、計18単位以上(他コースのコース科目を含めることができる)を修得すること。実習科目として、各コースの標準履修もしくは現職教員学生履修が定めるところの各科目10単位を修得すること。合計47単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:53単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・専任准教授の採用により、「カリキュラム編成の理論と香川の教育」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・専任准教授の採用により、「教材研究・開発とICT活用による授業改善」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・専任准教授の採用により、「指導法分析と学習支援」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更。
- ・専任准教授の採用により、「道德教育の実践研究」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・兼任教授の追加により、「学級経営実践研究」の兼任・兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・専任准教授の採用により、「学校教育の役割と教員のライフステージ」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・専任准教授の採用により、「教育実践研究における研究倫理」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・専任教授の退職と専任准教授の採用により、「探究実習（授業力開発）」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授11」に変更、「准教授13」から「准教授15」に変更。
- ・専任准教授の採用により、「道德教育と学校経営実践研究」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・専任准教授の採用により、「子ども理解と学習指導」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・専任准教授の採用により、「授業研究の実際」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・専任准教授の採用により、「道德授業の実践研究」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・専任教授の退職と専任准教授の採用により、「教科の本質と内容構成」の専任教員等の配置を「教授10」から「教授9」に変更、「准教授7」から「准教授8」に変更。
- ・専任教授の退職と専任准教授の採用により、「教科横断的教育内容と教科学習」の専任教員等の配置を「教授11」から「教授10」に変更、「准教授7」から「准教授8」に変更。
- ・専任教授の退職により、「教材研究の理論と動向」の専任教員等の配置を「教授11」から「教授10」に変更、兼任教授及び准教授の退職により、兼任教員の配置を「41」から「38」に変更。
- ・専任教授の退職により、「教材開発の実際と評価」の専任教員等の配置を「教授11」から「教授10」に変更、兼任教授及び准教授の退職により、兼任教員の配置を「41」から「38」に変更。
- ・専任教授の退職と専任准教授の採用により、「教職実践研究Ⅰ（授業力開発）」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授11」に変更、「准教授13」から「准教授15」に変更。
- ・専任教授の退職と専任准教授の採用により、「教職実践研究Ⅱ（授業力開発）」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授11」に変更、「准教授13」から「准教授15」に変更。
- ・専任教授の退職と専任准教授の採用により、「学校臨床基礎実習Ⅰ（授業力開発）」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授11」に変更、「准教授13」から「准教授15」に変更。
- ・専任教授の退職と専任准教授の採用により、「学校臨床基礎実習Ⅱ（授業力開発）」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授11」に変更、「准教授13」から「准教授15」に変更。
- ・専任教授の退職と専任准教授の採用により、「学校臨床実習Ⅰ（授業力開発）」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授11」に変更、「准教授8」から「准教授10」に変更。
- ・専任教授の退職と専任准教授の採用により、「学校臨床実習Ⅱ（授業力開発）」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授11」に変更、「准教授8」から「准教授10」に変更。
- ・専任教授の退職と専任准教授の採用により、「授業力開発実習Ⅰ（授業力開発）」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授11」に変更、「准教授8」から「准教授10」に変更。
- ・専任教授の退職と専任准教授の採用により、「授業力開発実習Ⅱ（授業力開発）」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授11」に変更、「准教授8」から「准教授10」に変更。
- ・誤謬により、授業科目の名称を「学習上のつまずき・困難の指導」から「学習上のつまずき・困難への指導」に訂正。
- ・誤謬により、授業科目の名称を「生徒指導と教育相談の理論と実際」から「生徒指導と教育相談の理論と実践」に訂正。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
2 科目	57 科目		59 科目	2 科目 [0]	57 科目 [0]	0 科目 [0]	59 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{59} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校舎敷地の内、10,148㎡を香川県より借用（毎年更新）			
	校舎敷地	167,491㎡	0㎡	0㎡	167,491㎡				
	運動場用地	80,981㎡	0㎡	0㎡	80,981㎡				
	小 計	248,472㎡	0㎡	0㎡	248,472㎡				
	そ の 他	702,551㎡	0㎡	0㎡	702,551㎡				
	合 計	951,023㎡	0㎡	0㎡	951,023㎡				
(2) 校舎	専 用	170,301㎡	0㎡	0㎡	170,301㎡				
	(170,301㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(170,301㎡)					
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	36室	18室	39室	0室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 2人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	教育学研究科 高度教職実践専攻			31 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体 ※博物館資産登録済の標本数は339	
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕					点
	教育学研究科高度教職実践専攻	867,500 [267,227] (868,288 [267,227])	25,789 [7,449] (25,789 [7,449])	5,547 [4,161] (5,547 [4,161])	9,301 (9,301)	0 (0)	1,061 (1,061)		
	計	867,500 [267,227] (868,288 [267,227])	25,789 [7,449] (25,789 [7,449])	5,547 [4,161] (5,547 [4,161])	9,301 (9,301)	0 (0)	1,061 (1,061)		
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収納可能冊数				
	11,101㎡		966席		1,104,000冊				
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	5,577㎡		運動場 5 面 テニスコート 14 面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	香川大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
教育学部	4	160	-	640	学士(教育学)	1.03	1.03	-	平成15	-	
学校教育教員養成課程	4	160	-	640	学士(教育学)	1.03	1.03	-	平成15	香川県高松市幸町1番1号	
人間発達環境課程	4	-	-	-	学士(教育学)	-	-	-	平成15	同上	平成30年より学生募集停止
法学部	4	160	3年次10	660	学士(法学)	1.02	0.97	-	平成15	-	
(昼夜開講制)											
法学科(昼)	4	150	3年次10	620	学士(法学)	1.06	1.03	-	平成15	香川県高松市幸町2番1号	
(夜)		10	-	40		0.42	0.10	-	平成15	同上	
経済学部	4	250	3年次20	1,040	学士(経済学)	1.04	1.08	-	平成30	-	上段は昼間コース、下段は、夜間主コース
(昼夜開講制)											
経済学科(昼)	4	-	-	-	学士(経済学)	-	-	-	平成15	香川県高松市幸町2番1号	平成30年より学生募集停止
(夜)		-	-	-		-	-	-	平成15	同上	平成30年より学生募集停止
経営システム学科(昼)	4	-	-	-		-	-	-	平成15	同上	平成30年より学生募集停止
(夜)		-	-	-		-	-	-	平成15	同上	平成30年より学生募集停止
地域社会システム学科(昼)	4	-	-	-		-	-	-	平成15	同上	平成30年より学生募集停止
(夜)		-	-	-		-	-	-	平成15	同上	平成30年より学生募集停止
経済学科(昼)	4	240	3年次20	1,000	学士(経済学)	1.05	1.08	-	平成30	香川県高松市幸町2番1号	平成29年度事前伺い平成30年4月設置
(夜)		10	-	40		0.83	1.00	-	平成30	同上	平成29年度事前伺い平成30年4月設置
医学部	6	109	2年次5	623	学士(医学)	1.00	1.00	令和2	平成15	-	
	4	80	3年次10	340	学士(看護学)	1.04	1.02	-	平成15	-	
医学科	6	109	2年次5	623	学士(医学)	1.00	1.00	令和2	平成15	香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	令和2年度収容定員増による学年通行令和2年度入学者に適用される学則上の収容定員を記載
看護学科	4	60	3年次10	260	学士(看護学)	1.05	1.01	-	平成15	同上	
臨床心理学科	4	20	-	80	学士(臨床心理学)	1.01	1.05	-	平成30	同上	平成29年度事前伺い平成30年4月設置
創造工学部	4	330	3年次20	1,360	学士(工学)	1.02	1.00	-	平成30	-	
創造工学科	4	330	3年次20	1,360	学士(工学)	1.02	1.00	-	平成30	香川県高松市林町2217番地20	平成29年度事前伺い平成30年4月設置
例)	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成15	-	
安全システム建設工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成15	香川県高松市林町2217番地20	平成30年より学生募集停止
電子・情報工学科	4	-	-	-		-	-	-	平成15	同上	平成30年より学生募集停止
知能機械システム工学科	4	-	-	-		-	-	-	平成15	同上	平成30年より学生募集停止
材料創造工学科	4	-	-	-		-	-	-	平成15	同上	平成30年より学生募集停止
農学部	4	150	-	600	学士(農学)	1.03	1.00	-	平成18	-	
応用生物科学科	4	150	-	600	学士(農学)	1.03	1.00	-	平成18	香川県木田郡三木町大字池戸2393番地	
大学全体(学部)	4	1,130	3年次60	4,640	-	1.03	1.02	-	-	-	
	6	109	2年次5	623	-	1.00	1.00	-	-	-	

大学の名称	香川大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
教育学研究科											
修士課程	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	平成15	-	
学校教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	平成15	香川県高松市幸町1番1号	令和2年より学生募集停止
教科教育専攻	2	-	-	-		-	-	-	平成15	同上	令和2年より学生募集停止
学校臨床心理専攻	2	-	-	-		-	-	-	平成15	同上	令和2年より学生募集停止
専門職学位課程	2	20	-	40	教職修士(専門職)	0.65	0.65	-	平成28	-	
高度教職実践専攻	2	-	-	-	教職修士(専門職)	-	-	-	平成28	同上	令和2年より学生募集停止
高度教職実践専攻	2	20	-	40	教職修士(専門職)	0.65	0.65	-	令和2	同上	平成31年度事前伺い令和2年4月設置
法学研究科											
修士課程	2	8	-	16	修士(法学)	0.56	0.37	-	平成15	-	
法律学専攻	2	8	-	16	修士(法学)	0.56	0.37	-	平成15	香川県高松市幸町2番1号	
経済学研究科											
修士課程	2	10	-	20	修士(経済学)	0.55	0.60	-	平成15	-	
経済学専攻	2	10	-	20	修士(経済学)	0.55	0.60	-	平成15	香川県高松市幸町2番1号	
医学系研究科											
修士課程	2	26	-	52	修士(看護学)(臨床心理学)	0.69	0.57	-	平成15 令和2	-	
看護学専攻	2	16	-	32	修士(看護学)	0.68	0.56	-	平成15	香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	
臨床心理学専攻	2	10	-	20	修士(臨床心理学)	0.60	0.60	-	令和2	同上	平成31年度意見伺い令和2年4月設置
博士課程	4	30	-	120	博士(医学)	1.04	0.90	-	平成28	-	
機能構築医学専攻	4	-	-	-	博士(医学)	-	-	-	平成15	同上	平成28年より学生募集停止
分子情報制御医学専攻	4	-	-	-		-	-	-	平成15	同上	平成28年より学生募集停止
社会環境病態医学専攻	4	-	-	-		-	-	-	平成15	同上	平成28年より学生募集停止
医学専攻	4	30	-	120		1.04	0.90	-	平成28	同上	平成27年度事前伺い平成28年4月設置
工学研究科											
博士前期課程	2	78	-	156	修士(工学)	1.18	1.16	-	平成15	-	
安全システム建設工学専攻	2	18	-	36	修士(工学)	0.38	0.27	-	平成15	香川県高松市林町2217番地20	
信頼性情報システム工学専攻	2	24	-	48		1.29	1.50	-	平成15	同上	
知能機械システム工学専攻	2	18	-	36		1.66	1.44	-	平成15	同上	
材料創造工学専攻	2	18	-	36		1.38	1.33	-	平成15	同上	
博士後期課程	3	22	-	66	博士(工学)	0.43	0.31	-	平成16	-	
安全システム建設工学専攻	3	5	-	15	博士(工学)	0.46	0.40	-	平成16	同上	
信頼性情報システム工学専攻	3	7	-	21		0.14	0.28	-	平成16	同上	
知能機械システム工学専攻	3	5	-	15		0.86	0.20	-	平成16	同上	
材料創造工学専攻	3	5	-	15		0.40	0.40	-	平成16	同上	
農学研究科											
修士課程	2	60	-	120	修士(農学)	0.75	0.63	-	平成30	-	
応用生物・希少糖科学専攻	2	60	-	120	修士(農学)	0.75	0.63	-	平成30	同上	平成29年度事前伺い平成30年4月設置
地域マネジメント研究科											
専門職学位課程	2	30	-	60	経営修士(専門職)	1.11	1.13	-	平成16	-	
地域マネジメント専攻	2	30	-	60	経営修士(専門職)	1.11	1.13	-	平成16	香川県高松市幸町2番1号	

大学の名称	香川大学										備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
大学全体（大学院）	2	232	-	464	-	0.93	0.86	-	-	-	
	3	22	-	66	-	0.43	0.31	-	-	-	
	4	30	-	120	-	1.04	0.90	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜教育学研究科 高度教職実践専攻＞

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	柳澤 良明 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		自律的学校経営と学校組織 開かれた学校づくりと多職種連携 校内研修と人材育成 学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制づくり 学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ 学校におけるリーダーシップと組織論 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発)
専	教授	惠羅 修吉 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		発達支援を視点とした教育とアセスメント 心理検査の理論と実際 障害に対する心理学的理解と支援 教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発) 特別支援教育の理論と実践 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発) 探究実習(特別支援力開発) 特別支援教育指導実習Ⅰ 特別支援教育指導実習Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	柳澤 良明 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		自律的学校経営と学校組織 開かれた学校づくりと多職種連携 校内研修と人材育成 学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制づくり 学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ 学校におけるリーダーシップと組織論 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発)
専	教授	惠羅 修吉 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		発達支援を視点とした教育とアセスメント 心理検査の理論と実際 障害に対する心理学的理解と支援 教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発) 特別支援教育の理論と実践 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発) 探究実習(特別支援力開発) 特別支援教育指導実習Ⅰ 特別支援教育指導実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	宮前 義和 ＜令和2年4月＞ 修士(人間科学)
		教育実践研究における研究倫理 生徒指導と教育相談の理論と実際 行動困難と社会性の指導 子ども理解と学習指導 開かれた学校づくりと多職種連携 特別支援教育の理論と実践 教職実践研究Ⅰ(特別支援力開 発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開 発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力 開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力 開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開 発) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開 発) 探究実習(特別支援力開発) 特別支援教育指導実習Ⅰ 特別支援教育指導実習Ⅱ
准教授	准教授	金網 知征 ＜令和2年4月＞ Ph. D. Psychology (イギリス)
		学級経営実践研究 学校におけるリーダーシップと組 織論 学校組織における生徒指導と教育 相談 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発) 生徒指導と教育相談の理論と実際 道徳教育の実践研究 道徳教育と学校経営実践研究 学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制 づくり 学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例 研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	宮前 義和 ＜令和2年4月＞ 修士(人間科学)
		教育実践研究における研究倫理 生徒指導と教育相談の理論と 実践 行動困難と社会性の指導 子ども理解と学習指導 開かれた学校づくりと多職種連携 特別支援教育の理論と実践 教職実践研究Ⅰ(特別支援力開 発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開 発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力 開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力 開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開 発) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開 発) 探究実習(特別支援力開発) 特別支援教育指導実習Ⅰ 特別支援教育指導実習Ⅱ
専	准教授	金網 知征 ＜令和2年4月＞ Ph. D. Psychology (イギリス)
		学級経営実践研究 学校におけるリーダーシップと組 織論 学校組織における生徒指導と教育 相談 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発) 生徒指導と教育相談の理論と 実践 道徳教育の実践研究 道徳教育と学校経営実践研究 学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制 づくり 学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例 研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ
専	准教授	笹屋 孝允 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		指導法分析と学習支援 学校教育の役割と教員のライフ ステージ 子ども理解と学習指導 授業研究の実際 教科横断的教育内容と教科学習 学校臨床基礎実習(授業力開発) Ⅰ 学校臨床基礎実習(授業力開発) Ⅱ 学校臨床実習(授業力開発)Ⅰ 学校臨床実習(授業力開発)Ⅱ 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	中島 栄美子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		心理検査の理論と実際 特別支援教育の理論と実践 障害に対する心理学的理解と支援 教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発) 探究実習(特別支援力開発) 特別支援教育指導実習Ⅰ 特別支援教育指導実習Ⅱ
専他	教授(研究科長)	毛利 猛 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		学級経営実践研究 学校におけるリーダーシップと組織論 学校組織における生徒指導と教育相談 学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制づくり 学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ
専他	教授	野崎 武司 ＜令和2年4月＞ 体育学修士
		教材研究・開発とICT活用による授業改善 授業研究の実際 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ 現代の学校教育の役割と教員のライフステージ 子ども理解と学習指導 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	中島 栄美子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		心理検査の理論と実際 特別支援教育の理論と実践 障害に対する心理学的理解と支援 教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発) 探究実習(特別支援力開発) 特別支援教育指導実習Ⅰ 特別支援教育指導実習Ⅱ
専他	教授	毛利 猛 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		学級経営実践研究 学校におけるリーダーシップと組織論 学校組織における生徒指導と教育相談 学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制づくり 学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ
専他	教授(研究科長)	野崎 武司 ＜令和2年4月＞ 体育学修士
		教材研究・開発とICT活用による授業改善 授業研究の実際 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ 現代の学校教育の役割と教員のライフステージ 子ども理解と学習指導 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	佐藤 明宏 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		学習上のつまずき・困難への指導 教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	教授	山本 茂喜 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	教授	伊藤 裕康 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	佐藤 明宏 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		学習上のつまずき・困難への指導 教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	教授	山本 茂喜 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	笠 潤平 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	教授	松村 雅文 ＜令和2年4月＞ 理学博士
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	教授	岡田 知也 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	教授	黒田 勉 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	笠 潤平 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	教授	松村 雅文 ＜令和2年4月＞ 理学博士
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	教授	岡田 知也 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	教授	黒田 勉 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	妹尾(大原) 理子 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	教授	武藏 博文 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		学習上のつまずき・困難への指導 特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用 特別支援教育の理論と実践 行動困難と社会性の指導 言語コミュニケーションの指導 特別支援力の支援技術 教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発) 探究実習(特別支援力開発) 特別支援力指導実習Ⅰ 特別支援力指導実習Ⅱ
専他	准教授	宮前 淳子 ＜令和2年4月＞ 修士(心理学)
		学校におけるリーダーシップと組織論 学校組織における生徒指導と教育相談 学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制づくり 学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	妹尾(大原) 理子 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	教授	武藏 博文 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		学習上のつまずき・困難への指導 特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用 特別支援教育の理論と実践 行動困難と社会性の指導 言語コミュニケーションの指導 特別支援力の支援技術 教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発) 探究実習(特別支援力開発) 特別支援力指導実習Ⅰ 特別支援力指導実習Ⅱ
専他	准教授	宮前 淳子 ＜令和2年4月＞ 修士(心理学)
		学校におけるリーダーシップと組織論 学校組織における生徒指導と教育相談 学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制づくり 学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	バテン ポール ジェラード ＜令和2年4月＞ M. A. Linguistics (イギリス)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	准教授	吉川 暢子 ＜令和2年4月＞ 博士(学校教育学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	准教授	米村 耕平 ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)
		学習上のつまずき・困難への指導 教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	バテン ポール ジェラード ＜令和2年4月＞ M. A. Linguistics (イギリス)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	准教授	吉川 暢子 ＜令和2年4月＞ 博士(学校教育学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
専他	准教授	米村 耕平 ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)
		学習上のつまずき・困難への指導 教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	岡田 涼 ＜令和2年4月＞ 博士(心理学)
		教科の本質と内容構成 指導法分析と学習支援 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
		植田 和也 ＜令和2年4月＞ 修士(学校教育学)
実専	教授	道徳教育の実践研究 道徳教育と学校経営実践研究 道徳授業の実践研究 教科横断的教育内容と教科学習 探究実習(授業力開発) 学級経営実践研究 子ども理解と学習指導 授業研究の実際 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
		山本 木ノ実 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		個別の指導計画と個に応じた支援 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発) 探究実習(特別支援力開発) 特別支援教育指導実習Ⅰ 特別支援教育指導実習Ⅱ 生徒指導と教育相談の理論と実際 発達支援を視点とした教育とアセスメント 特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用 特別支援教育の理論と実践 教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	岡田 涼 ＜令和2年4月＞ 博士(心理学)
		教科の本質と内容構成 指導法分析と学習支援 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
		植田 和也 ＜令和2年4月＞ 修士(学校教育学)
実専	教授	道徳教育の実践研究 道徳教育と学校経営実践研究 道徳授業の実践研究 教科横断的教育内容と教科学習 探究実習(授業力開発) 学級経営実践研究 子ども理解と学習指導 授業研究の実際 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
		山本 木ノ実 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		個別の指導計画と個に応じた支援 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発) 探究実習(特別支援力開発) 特別支援教育指導実習Ⅰ 特別支援教育指導実習Ⅱ 生徒指導と教育相談の理論と 実践 発達支援を視点とした教育とアセスメント 特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用 特別支援教育の理論と実践 教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	大熊 裕樹 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		指導法分析と学習支援 授業研究の実際 道徳授業の実践研究 教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
実専他	教授	鈴木 正行 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教科横断的教育内容と教科学習 教科の本質と内容構成 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	大熊 裕樹 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		指導法分析と学習支援 授業研究の実際 道徳授業の実践研究 教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
実専	准教授	清水 顕人 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム編成の理論と香川の教育 教材研究・開発とICT活用による授業改善 道徳教育の実践研究 道徳教育と学校経営実践研究 教育実践研究における研究倫理 教科の本質と内容構成 道徳授業の実践研究 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習(授業力開発)Ⅰ 学校臨床基礎実習(授業力開発)Ⅱ 学校臨床実習(授業力開発)Ⅰ 学校臨床実習(授業力開発)Ⅱ 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
実専他	教授	鈴木 正行 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教科横断的教育内容と教科学習 教科の本質と内容構成 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専他	教授	片岡 元子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
実専他	准教授	久米 亜弥 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教職実践研究(授業力開発)Ⅰ 教職実践研究(授業力開発)Ⅱ 学校臨床基礎実習(授業力開発)Ⅰ 学校臨床基礎実習(授業力開発)Ⅱ 学校臨床実習(授業力開発)Ⅰ 学校臨床実習(授業力開発)Ⅱ 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ 探究実習(授業力開発)
実専他	准教授	中住 幸治 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専他	教授	片岡 元子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
実専他	准教授	久米 亜弥 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教職実践研究(授業力開発)Ⅰ 教職実践研究(授業力開発)Ⅱ 学校臨床基礎実習(授業力開発)Ⅰ 学校臨床基礎実習(授業力開発)Ⅱ 学校臨床実習(授業力開発)Ⅰ 学校臨床実習(授業力開発)Ⅱ 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ 探究実習(授業力開発)
実専他	准教授	中住 幸治 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教科の本質と内容構成 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専他	准教授	松島 充 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教科の本質と内容構成 学習上のつまずき・困難への指導 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
実み	教授	野村 一夫 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		カリキュラム編成の理論と香川の教育 自律的学校経営と学校組織 開かれた学校づくりと多職種連携 学校教育の役割と教員のライフステージ 学校におけるリーダーシップと組織論 校内研修と人材育成 学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制づくり 学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ
実み	教授	津山 勝義 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学)
		カリキュラム編成の理論と香川の教育 自律的学校経営と学校組織 学校教育の役割と教員のライフステージ 道徳教育と学校経営実践研究 校内研修と人材育成 学校組織における生徒指導と教育相談 学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制づくり 学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専他	准教授	松島 充 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教科の本質と内容構成 学習上のつまずき・困難への指導 教科横断的教育内容と教科学習 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
実み	教授	野村 一夫 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		カリキュラム編成の理論と香川の教育 自律的学校経営と学校組織 開かれた学校づくりと多職種連携 学校教育の役割と教員のライフステージ 学校におけるリーダーシップと組織論 校内研修と人材育成 学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制づくり 学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ
実み	教授	津山 勝義 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学)
		カリキュラム編成の理論と香川の教育 自律的学校経営と学校組織 学校教育の役割と教員のライフステージ 道徳教育と学校経営実践研究 校内研修と人材育成 学校組織における生徒指導と教育相談 学校の危機管理研究Ⅰ:校内体制づくり 学校の危機管理研究Ⅱ:個別事例研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	准教授	橘 慎二郎 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		探究実習(学校力開発) 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発)
実み	准教授	片岡 亜貴子 ＜令和年4月＞ 学士(文学)
		探究実習(学校力開発) 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発)
実み	准教授	太田 隆志 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学)
		探究実習(学校力開発) 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発)
実み	准教授	大和田 俊 ＜令和2年4月＞ 修士(人間科学)
		探究実習(学校力開発) 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	准教授	橘 慎二郎 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		探究実習(学校力開発) 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発)
実み	准教授	片岡 亜貴子 ＜令和年4月＞ 学士(文学)
		探究実習(学校力開発) 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発)
実み	准教授	池田 良 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		探究実習(学校力開発) 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発)
実み	准教授	大和田 俊 ＜令和2年4月＞ 修士(人間科学)
		探究実習(学校力開発) 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	准教授	藤澤 麻子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発) 探究実習(特別支援力開発)
実み	准教授	桑原 育子 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学)
		探究実習(学校力開発) 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発)
兼担	教授	櫻井 佳樹 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		道德教育と学校経営実践研究
兼担	教授	山岸 知幸 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		カリキュラム編成の理論と香川の教育
兼担	教授	轟木(岡) 靖子 ＜令和2年4月＞ 修士(言語・文化学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼担	教授	山下 直子 ＜令和2年4月＞ 人文科学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	准教授	藤澤 麻子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発) 探究実習(特別支援力開発)
実み	准教授	桑原 育子 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学)
		探究実習(学校力開発) 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発)
兼担	教授	櫻井 佳樹 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		道德教育と学校経営実践研究
兼担	教授	山岸 知幸 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		カリキュラム編成の理論と香川の教育
兼担	教授	轟木(岡) 靖子 ＜令和2年4月＞ 修士(言語・文化学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼担	教授	山下 直子 ＜令和2年4月＞ 人文科学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	小方 朋子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		発達支援を視点とした教育とアセスメント 個別の指導計画と個に応じた支援
兼任	教授	坂井 聡 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		言語コミュニケーションの指導 特別支援教育の支援技術
兼任	教授	西田 智子 ＜令和2年4月＞ 医学博士
		特別支援教育のための生理・病理
兼任	教授	藤元 恭子 ＜令和2年4月＞ 修士(体育学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	小西 憲一 ＜令和2年4月＞ 芸術学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	永尾 智 ＜令和2年4月＞ 文学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	石川 徹 ＜令和2年4月＞ 文学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	平 篤志 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	小方 朋子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		発達支援を視点とした教育とアセスメント 個別の指導計画と個に応じた支援
兼任	教授	坂井 聡 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		言語コミュニケーションの指導 特別支援教育の支援技術
兼任	教授	西田 智子 ＜令和2年4月＞ 医学博士
		特別支援教育のための生理・病理
兼任	教授	藤元 恭子 ＜令和2年4月＞ 修士(体育学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	小西 憲一 ＜令和2年4月＞ 芸術学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	永尾 智 ＜令和2年4月＞ 文学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	石川 徹 ＜令和2年4月＞ 文学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	平 篤志 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	清國 祐二 ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	時岡 晴美 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	佐竹 郁夫 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	北林 雅洋 ＜令和2年4月＞ 工学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	高木 由美子 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	高橋 尚志 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	寺尾 徹 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	宮崎 英一 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		教材研究・開発とICT活用による授 業改善 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	時岡 晴美 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	北林 雅洋 ＜令和2年4月＞ 工学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	高木 由美子 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	高橋 尚志 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	寺尾 徹 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	宮崎 英一 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		教材研究・開発とICT活用による授 業改善 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	青山(高山)夕夏 ＜令和2年4月＞ 修士(音楽)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	若井 健司 ＜令和2年4月＞ 芸術学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	古草 敦史 ＜令和2年4月＞ 芸術学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	石川 雄一 ＜令和2年4月＞ 体育学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	山神 眞一 ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	松本 一範 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	上野 耕平 ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	青山(高山)夕夏 ＜令和2年4月＞ 修士(音楽)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	若井 健司 ＜令和2年4月＞ 芸術学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	古草 敦史 ＜令和2年4月＞ 芸術学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	石川 雄一 ＜令和2年4月＞ 体育学修士
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	山神 眞一 ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	松本 一範 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	上野 耕平 ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	小方 直幸 ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		学級経営実践研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	畦 五月 ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	高野 啓児 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	大久保 智生 ＜令和2年4月＞ 博士(人間科学)
		学級経営実践研究 学校組織における生徒指導と教育 相談
兼任	准教授	松本 博雄 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	古橋 紀宏 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	渡邊 史郎 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	唐澤 晃一 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	葛城 浩一 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	畦 五月 ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	教授	高野 啓児 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	大久保 智生 ＜令和2年4月＞ 博士(人間科学)
		学級経営実践研究 学校組織における生徒指導と教育 相談
兼任	准教授	松本 博雄 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	古橋 紀宏 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	渡邊 史郎 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	唐澤 晃一 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	葛城 浩一 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	三宅 岳史 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	守田 逸人 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	松井 剛太 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	四ツ谷 直仁 ＜令和2年4月＞ 博士(数理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	青木 高明 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	小森 博文 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	篠原 渉 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	藤 博之 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	三宅 岳史 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	守田 逸人 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	松井 剛太 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	四ツ谷 直仁 ＜令和2年4月＞ 博士(数理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	青木 高明 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	小森 博文 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	篠原 渉 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	山田 貴志 <令和2年4月> 博士(工学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	松下 幸司 <令和2年4月> 博士(人間科学)
		教材研究・開発とICT活用による授 業改善 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	宮本 賢作 <令和2年4月> 博士(医学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	講師	東浦 亜希子 <令和2年4月> 博士(音楽)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	山田 貴志 <令和2年4月> 博士(工学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	松下 幸司 <令和2年4月> 博士(人間科学)
		教材研究・開発とICT活用による授 業改善 教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	宮本 賢作 <令和2年4月> 博士(医学)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価
兼任	准教授	東浦 亜希子 <令和2年4月> 博士(音楽)
		教材研究の理論と動向 教材開発の実践と評価

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・専任の伊藤裕康教授が他大学へ転出のため辞任。(令和2年3月31日) 令和2年10月専任教員採用予定で公募中。
- ・専任の太田隆志准教授が附属学校内での担当変更のため辞任、池田良准教授に変更。
- ・清水顕人が専任准教授に就任。教員審査省略(令和2年4月1日)
- ・笹屋孝允が専任准教授に就任。教員審査省略(令和2年4月1日)
- ・兼担の睦五月が准教授から教授に昇任。(令和2年4月1日)
- ・兼担の高野啓児が准教授から教授に昇任。(令和2年4月1日)
- ・兼担の東浦亜希子が講師から准教授に昇任。(令和2年4月1日)
- ・兼担の清國祐二教授が他大学へ転出のため辞任。(令和2年3月31日)
- ・兼担の佐竹郁夫教授が他大学へ転出のため辞任。(令和2年3月31日)
- ・兼担の藤博之准教授が他大学へ転出のため辞任。(令和2年3月31日)
- ・指導体制充実のため、小方直幸教授を兼担に追加。(令和2年4月1日)
- ・誤謬により、宮前義和教授担当授業科目の名称を「生徒指導と教育相談の理論と実際」から「生徒指導と教育相談の理論と実践」に訂正。
- ・誤謬により、山本木ノ実教授担当授業科目の名称を「生徒指導と教育相談の理論と実際」から「生徒指導と教育相談の理論と実践」に訂正。
- ・誤謬により、金網知征准教授担当授業科目の名称を「生徒指導と教育相談の理論と実際」から「生徒指導と教育相談の理論と実践」に訂正。
- ・誤植により、桑原育子准教授の年齢を「51」から「50」に訂正。
- ・任期満了のため研究科長を毛利猛教授から野崎武司教授に変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数
37	18	15
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【教職大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
20	17	0	0	37	0	19	19	0	0	38	0
(19)	(19)	(0)	(0)	(38)	(0)						
研究者教員数			講義のみ担当の教員数			研究者教員数			講義のみ担当の教員数		
21			47			21			44		
(21)			(44)			(21)			(44)		
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
19	19	0	0	38	0	19	19	0	0	38	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究者教員数			講義のみ担当の教員数			研究者教員数			講義のみ担当の教員数		
21			44			21			44		
[0]			[0]			[0]			[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、例)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{38}{37} = \boxed{102.7} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{38} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) 一① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
1	教授	伊藤 裕康	R2.3	選択	教科の本質と内容構成	①	R2.3 他大学へ転出のため就任辞退(2)		
				選択	教科構造的教育内容と強化学習	①			
				選択	教材研究の理論と動向	①			
				選択	教材開発の実践と評価	①			
				選択	教職実践研究Ⅰ（授業力開発）	①			
				選択	教職実践研究Ⅱ（授業力開発）	①			
				選択	学校臨床基礎実習Ⅰ（授業力開発）	①			
				選択	学校臨床基礎実習Ⅱ（授業力開発）	①			
				選択	学校臨床実習Ⅰ（授業力開発）	①			
				選択	学校臨床実習Ⅱ（授業力開発）	①			
				選択	探究実習（授業力開発）	①			
				選択	授業力開発実習Ⅰ	①			
				2	准教授	太田 隆志		R2.3	選択
選択	教職実践研究Ⅰ（授業力開発）	①							
選択	教職実践研究Ⅱ（授業力開発）	①							
選択	学校臨床基礎実習Ⅰ（授業力開発）	①							
選択	学校臨床基礎実習Ⅱ（授業力開発）	①							
選択	探究実習（授業力開発）	①							
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	19 科目	選択	19 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	19 科目	計	19 科目	計	0 科目	計	0 科目

例)

- ・「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) 一② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) 一② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし							
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) 一③ 上記 (3) 一① ・ (3) 一② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	19 科目	選択	19 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	19 科目	計	19 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{2}{37} = \boxed{5.4} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

授業開始前の辞任及び後任補充のため、学生の履修等への影響はないと考える。学生への周知も特に行っていない。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">該当なし</div>		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学研究科 高度教職実践専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>○教育課程の編成の考え方及び特色 ア 教育課程の編成の考え方 ③ 実習科目について 共通科目及びコース科目で修得した確かな教育理論を具体的なスキルにつなげていくことをねらいとする実習(各コース10単位)は、極めて重要な位置づけになっている。それぞれのコースにおいて、学部卒学生、現職教員学生のそれぞれに最適な実習プログラムが構築されている。</p> <p>○ 入学者選抜の概要 ウ 現職教員受入れのための具体的方策</p> <p>エ 学部新卒者受入れのための具体的方策</p> <p>○連携協力校等との連携 ア 連携協力する学校名と具体的な連携内容 イ 連携協力校以外の関係機関(民間企業、関係行政機関、教育センター等)の名称と具体的な連携内容 ウ 大学・学部が附属学校を設置している場合の活用方法</p> <p>○実習の具体的計画 ア 実習計画の概要 イ 実習指導体制と方法</p> <p>ウ 施設との連携体制と方法</p> <p>○教育委員会等との調整内容の履行状況 キ 教職大学院の管理運営体制</p>	<p>[R.2]新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業開始が4月17日以降となり、実習の開始も小・中学校が再開する時期以降を予定している。それまでを事前学修としての自らの課題を明確にするなどにより対応している。</p> <p>[R.2]香川県教育委員会からの派遣が7名、岡山県教育委員会からの派遣が2名であった。教員の大量退職期が続いており、派遣できる年齢層の教員が減少したため、例年より4名程度少なかった。新型コロナウイルスの感染拡大防止の対策を図りつつ、市町教育委員会や校長会等への広報活動を充実する。</p> <p>[R.2]令和2年度の学部新卒者は4名であった。教員志望の学生に、教職大学院に関心のある者が一定数いるが、多くが採用または講師となった。新型コロナウイルスの感染拡大防止の対策を図りつつ、学部3・4年生を対象とする広報や自主サークル等での説明、他大学での説明会の実施、YouTubeでPR動画の配信等の広報活動の充実を図る。</p> <p>[R.2]新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、関係機関と十分な情報交換と連絡を取りながら、状況に応じて柔軟に対応することを確認している。</p> <p>[R.2]新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現段階では実習の開始は小・中学校が再開する時期以降を予定している。可能な範囲で準備をすすめ、状況に応じて対応している。感染防止のため実習開始が更に遅れることも含めて、適宜、市町教委や学校と話し合いながら実施するように心がけている。</p> <p>[R.2]随時、実習施設と連絡を取り合って新型コロナウイルス感染拡大防止に関する実習の在り方について相談している。</p> <p>[R.2]令和2年3月には「教職大学院運営協議会」、「教職大学院教育課程連携協議会」を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止して、郵送による説明やアンケート実施とした。</p>

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

例)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ア 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院)会議
- イ 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院)運営協議会
- ウ 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院)実習連絡協議会

- b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）
- ア 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）会議
開催回数：月1～2回
出席者：専攻に専従する教員を中心とした専任教員、担当事務職員
- イ 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）運営協議会
開催回数：年1回（3月）
出席者：研究科長、専攻長、香川県教育委員会義務教育課長、香川県教育委員会高校教育課長、香川県教育委員会特別支援教育課長、岡山県教育庁高校教育課長、高松市教育委員会学校教育課長
- ウ 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）実習連絡協議会
開催回数：年1回（2月）
出席者：専攻長、専攻実習担当教員3名、香川県教育委員会担当1名、関係市町教育委員会担当若干名、連携協力校実習実施校校長、附属学校園実習実施校園副校長・副園長等 若干名

c 委員会の審議事項等

- ア 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）会議
審議事項：・専攻担当教員の選考に関する事項
・専攻に関する規程の改廃に関する事項
・教育課程（実習含む）の編成に関する事項
・現職教員等入学志願者の実習の免除措置に関する事項
・在学期間の短縮に関する事項
・その他専攻に関する重要事項
- イ 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）運営協議会
審議事項：・教職大学院の教育研究活動及び組織運営の方針等に関する事
・教職大学院の教育研究活動の成果及び評価に関する事
・教職大学院の運営における連携協力に関する事
・その他教職大学院の運営について必要な事項に関する事。
- ウ 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）実習連絡協議会
審議事項：・連携協力校等における実習の内容（教育課題・学校課題等を含む）に関する事
・連携協力校等における実習の企画・期間等の調整に関する事
・連携協力校等における実習の評価等、成果の検証及び改善に関する事
・その他連携協力校等における実習について必要な事項に関する事

② 実施状況

a 実施内容

授業方法・実習指導での助言指導等についての研修会・FD
教員相互の授業参観
（独）教職員支援機構のセミナー等への参加
日本教職大学院協会総会への参加
日本教職大学院協会研究大会、他大学実践研究成果公開フォーラムへの参加
全国教育系大学交流人事教員の会へ参加・他大学との情報交換
平成28年度～令和元年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業の計画・実施
香川県教育委員会主催「香川の教育づくり発表会」への参加・発表、教職大学院ブースでの広報

b 実施方法

高度教職実践専攻会議にて計画・実施する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

専攻教員を対象に授業・実習に関する説明・研修会、FDを実施した（おおむね月1回）
日本教職大学院協会総会への参加（令和元年度；3名）
日本教職大学院協会研究大会への参加（令和元年度；6名）
他大学実践研究成果公開フォーラムへの参加（令和元年度；四国地区教職大学院他）
全国教育系大学交流人事教員の会へ参加・他大学との情報交換（令和元年度；2名）
令和元年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業の実施（令和元年度；研修会年7回実施）
「香川の教育づくり発表会」への参加・発表（令和元年度；専任教員12名、院生19名、修了生12名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

参加教員からの報告及び事業開催後のアンケート結果を専攻会議において共有し、授業改善に生かす。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学期ごとに実施。加えて、修了時の学びの評価を実施。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果は専攻会議等で公表し、教員にフィードバックしている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

平成31年4月に、教職大学院教育課程連携協議会を発足させた。

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

開催回数：年1回(3月)

出席者：研究科長、専攻長、専攻カリキュラム担当教員、香川県教育委員会義務教育課長、香川県教育委員会高校教育課長、香川県教育委員会特別支援教育課長、香川県教育センター長、岡山県教育庁高校教育課長、高松市教育委員会学校教育課長、連携協力校又は実習実施校校長1名

設置前である令和元年度は、第1回目を令和元年7月に開催した。第2回目を令和2年3月1日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、急遽中止とした。委員の方々に資料を送付し、評価アンケートにより意見を伺った。

c 委員会の審議事項等

審議事項：
・教職大学院の授業科目の開発及び開設に関する事項
・教職大学院の教育課程の編成に関する基本的な事項
・教職大学院の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項
・その他教職大学院の教育課程に関する必要な事項

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

- ・改組により「教科領域を拡充した教職大学院」の教育課程について
- ・今後の授業科目の開発や開設及び他機関との連携による授業の実施等に関する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

- ・評価アンケートの結果をまとめ、専攻会議で共有し意見を交換した。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

- ・評価アンケートの結果を、令和2年度からの新教育課程の実施の際に参考とした。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

改組の趣旨・目的にそって計画通り進捗している。教職大学院の授業を活用した教員研修の仕組みづくりを検討するために、香川県教育委員会との間で「教員研修システム共同開発委員会」を設置した。令和元年度から学校力開発コースの授業科目の一部を改編して「学校危機管理」に関する授業科目を整備し、「教員研修連携科目」として香川県教育センターが行う職務研修に位置づけた。令和2年度から授業力開発コース、特別支援力開発コースの授業科目についても連携科目として充実を図る予定である。また、教科領域を拡充するために、授業力開発コースの授業科目を大幅に改編し「教科の本質」「教科横断的教育内容」「教材開発の理論と実践・評価」に関する授業科目を新たに設置した。教科領域の教員が多数参加するので、専任教員の打合せ、教科担当者の打合せを繰り返し行い、実施に向けた準備を整えた。さらに、特別支援力開発コースでは、これまでの発達障害等の子どもへの教育支援に加えて、特別支援学校教諭専修免許状が取得できるように科目を整備した。

令和2年度は入学定員20人に対して13人の入学者であった（現職教員学生9人、学部卒学生4人）。学部卒学生の入学者を増やすために、本学ならびに他大学の学部生を対象とした広報活動に引き続き積極的に取り組む予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和3年度に自己点検評価（大学全体）を実施予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度に機関別認証評価を受けるべく、学内で検討中。
- ・令和元年度に一般財団法人教員養成評価機構による認証評価を受審したため、次回は令和6年度までに受審予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。